

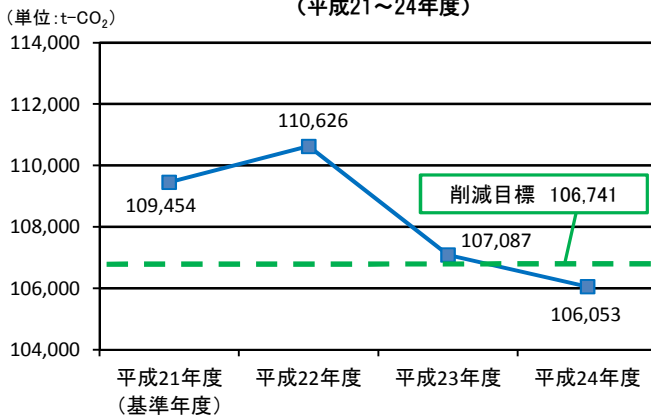
## 22 温対法及び温対条例に基づく温室効果ガス削減の取組

共通

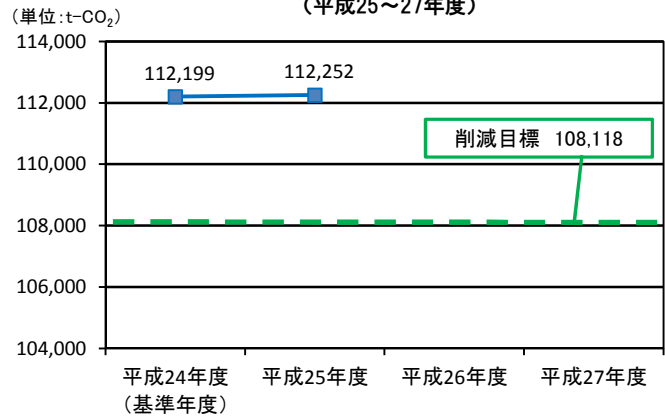
取組概要	進行管理の指標	平成25年度の取組結果	
<p>温対法及び温対条例に基づき、特定排出者・特定事業者として温室効果ガス排出量について所管官庁への報告等を行う。</p> <p>温室効果ガス削減に向け、設備更新に合わせた高効率型機器の採用などの取組を進める。</p>	<p>○温対条例に基づく第1期計画期間（平成22～24年度）における温室効果ガスの削減目標 平成21年度⇒平成24年度 約2,600t-CO<sub>2</sub>(約2.4%)の削減</p> <p>○温対条例に基づく第2期計画期間（平成25～27年度）における温室効果ガスの削減目標 平成24年度⇒平成27年度 約4,000t-CO<sub>2</sub>(約3.6%)の削減</p> <p>○温室効果ガス削減に向けた取組を実施</p>	<p>○温室効果ガス排出量<sup>*</sup> 平成25年度 11万2,252t-CO<sub>2</sub></p> <p>○設備更新に合わせた高効率型機器の採用</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><sup>*</sup>温室効果ガス排出量 温対条例に基づく温室効果ガス排出量の算定は、各基準年度における電気事業者ごとの実排出係数を計画期間中固定し算出している (例) 東京電力株式会社 平成21年度実排出係数 0.418t-CO<sub>2</sub>/kWh 平成24年度実排出係数 0.464t-CO<sub>2</sub>/kWh</p> </div>	
		<b>評価</b>	<b>B</b>

3か年計画の総括		今後の取組
<p>○温対条例に基づく第1期計画期間における温室効果ガスの削減目標を達成</p> <p>○温対条例に基づく第2期計画期間における温室効果ガスの削減目標に向けた取組を実施</p>		<p>○上下水道局全体での温室効果ガスの削減に向けた取組を継続実施</p>
<b>評価</b>	<b>B</b>	

第1期計画期間における温室効果ガス排出量の推移  
(平成21～24年度)



第2期計画期間における温室効果ガス排出量の推移  
(平成25～27年度)



## 23 ISO14001認証取得・更新

上水

工水

取組概要	進行管理の指標	平成25年度の取組結果	
<p>長沢浄水場においてはISO環境方針に沿って、年度ごとに環境目標を定め、その達成に向け行動するとともに、環境マネジメントシステムの継続的改善に努める。</p>	<p>[全部門共通目標]</p> <p>①電気使用量削減 (H24並み)</p> <p>②コピー用紙及びOA用紙の使用量の削減 (H22並み)</p> <p>③廃棄物のリサイクル化 (H25まで現状維持)</p> <p>④グリーン購入の推進 (100%)</p>	<p>①電気使用量13.4%削減 (H24対比)</p> <p>②コピー用紙使用量31.9%削減、OA用紙使用量25.9%増加 (H22対比)</p> <p>③廃棄物のリサイクル現状維持</p> <p>④グリーン購入100%実施</p>	
		<b>評価</b>	<b>B</b>

3か年計画の総括	今後の取組
<p>○資源・エネルギー削減は概ね達成できたが、施設再構築事業に伴う研修及び会議等において、大量な資料作成が必要となり、OA用紙使用量は増加</p>	<p>○ISO14001<sup>*</sup>認証の取得・更新を継続</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><sup>*</sup>ISO14001 組織活動が環境に及ぼす影響を最小限に食い止めることを目的に定められた環境に関する国際的な標準規格</p> </div>
<b>評価</b>	<b>B</b>

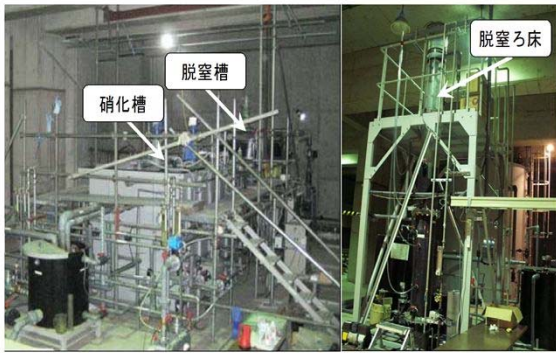


ISO14001認証シンボル

24 高度処理技術の開発 下水

取組概要	進行管理の指標	平成25年度の取組結果	
<p>等々力水処理センターは水質汚濁防止法等の新たな水質基準に対応可能な高度処理技術の開発と導入が喫緊の課題である。</p> <p>このため、平成20年度から水処理センター内に実験プラントを設置し、担体利用酸素循環式硝化脱窒法+脱窒ろ過法*の技術開発を行う。</p>	<p>○高度処理法の処理性能の向上に向けて実験プラントによる研究開発を実施</p>	<p>○高度処理法の脱窒ろ過性能の向上に向けた実験プラントによる研究開発を実施</p>	
<p><b>*担体利用酸素循環式硝化脱窒法+脱窒ろ過法</b>                      酸素活性汚泥法の反応タンクに微生物を結合固定化するために担体を投入し、後段に脱窒ろ過装置を設けることによって、下水中の窒素を効率的に処理する下水の処理方法</p>		<b>評価</b>	<b>B</b>

3か年計画の総括	今後の取組
<p>○平成23年度に外部評価機関による技術評価を取得</p> <p>○実験プラントによる研究開発結果を基本計画、基本設計に反映</p>	<p>○水処理センターに適した高度処理技術の研究を実施</p>
<b>評価</b>	<b>B</b>



研究開発中の高度処理技術の実験プラント

25 下水資源の有効利用技術の開発 下水

取組概要	進行管理の指標	平成25年度の取組結果	
<p>○入江崎総合スラッジセンターからの返流水のりん除去及びりん資源化に向けた研究の実施</p> <p>○温室効果ガス対策、省エネルギー及び下水汚泥の有効利用の観点から汚泥燃料化技術の開発に取り組む</p>	<p>○返流水に含まれるりんについて、既存施設の活用を含めた返流水りん除去システムの検討を実施</p> <p>○汚泥燃料化技術の実用化に向けて、製造実験及び物性等の調査を実施</p>	<p>○返流水に含まれるりんについて、既存施設を活用したりん除去調査を実施し、効率性・経済性の検討を実施</p> <p>○汚泥燃料化技術の実用化に向けて、汚泥燃料化物の製造実験を行い、成型工程や乾燥工程について調査するとともに、製造した燃料化物の発熱量等について調査を実施</p>	
		<b>評価</b>	<b>B</b>

3か年計画の総括	今後の取組
<p>○返流水のりん除去について、既存施設を活用した調査を実施し、更新計画や効率性・経済性を考慮した方法の検討を実施</p> <p>○汚泥燃料化技術の実用化に向けて、汚泥燃料化物の発熱量や取扱性の調査、汚泥燃料化装置における成型工程や乾燥工程の調査、燃料化事業による温室効果ガス削減効果の評価を実施</p>	<p>○資源・エネルギーの有効利用技術の研究を継続実施</p>
<b>評価</b>	<b>B</b>



汚泥燃料化物